

【参考資料】

〈畜産物価格制度の概要〉

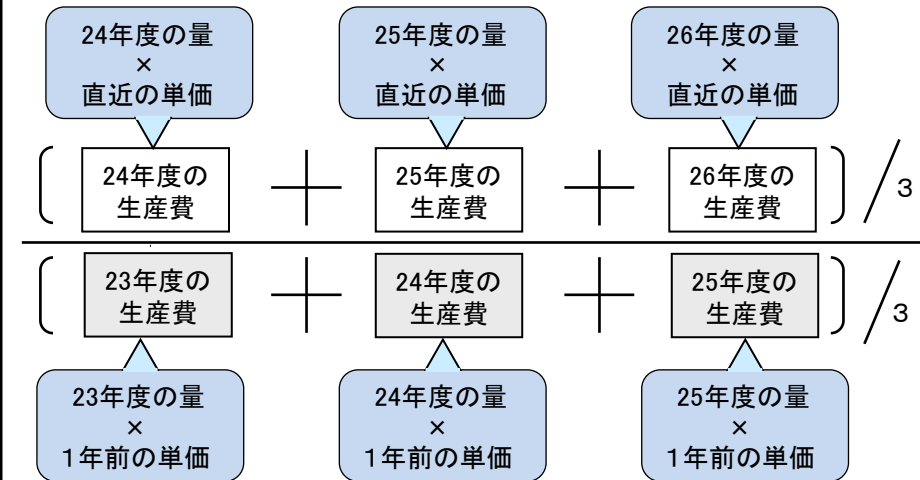
加工原料乳生産者補給金制度の概要

【目的】 飲用向けに比べて乳価の低い加工原料乳(脱脂粉乳・バター等向け及びチーズ向けの生乳)について生産者に補給金を交付することにより、加工原料乳地域(北海道)の生乳の再生産を確保し、生乳需給の安定を図る。

【補給金単価】 生産費の変動等に基づく一定のルールにより算定。

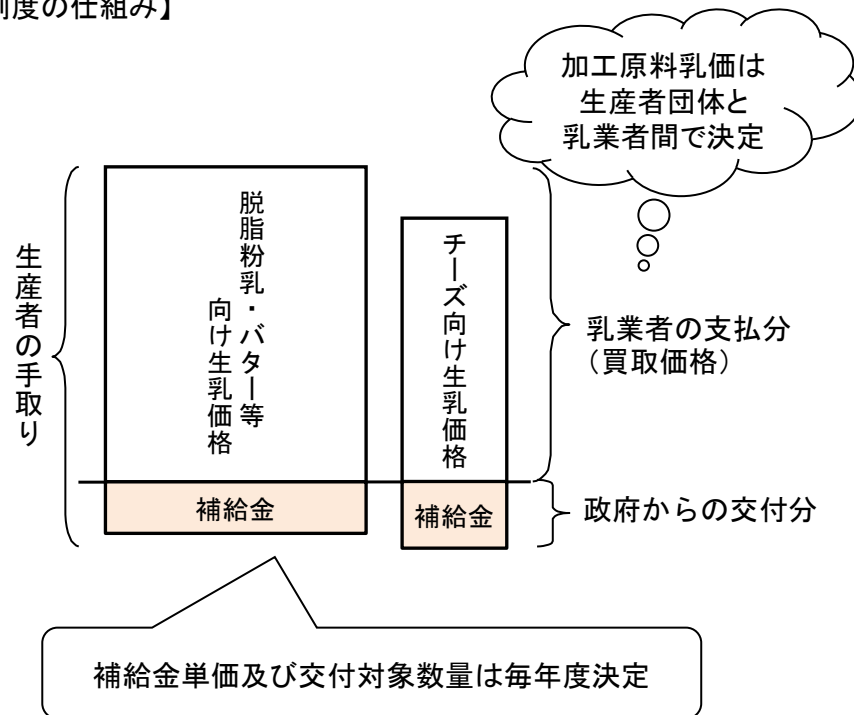
$$\text{27年度単価} \times \text{生産費の変動率} = \text{28年度単価}$$

変動率には、生産費の3年平均を用いるが、物財費等の各費目(単価×量)の単価について、算定時点で判明している直近3か月の物価に修正。



【交付対象数量】 生乳乳製品全体の需要見込み等を考慮して設定。

【制度の仕組み】



補給金単価と交付対象数量の推移

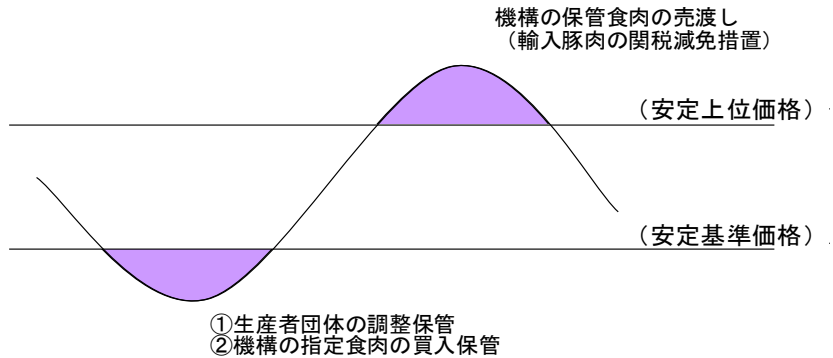
(単位:円/kg、万トン)

		H13	14	15	16	17	18	19	20		21	22	23	24	25	26	27	28
									4~6月	7月~								
脱・バ等	補給金単価	10.30	11.00	10.74	10.52	10.40	10.40	10.55	11.55	11.85	11.85	11.85	11.95	12.20	12.55	12.80	12.90	12.69
	交付対象数量	227	220	210	210	205	203	198	195	195	185	185	185	183	181	180	178	178
														チーズ*	補給金単価	15.41	15.53	15.28
															交付対象数量	52	52	52

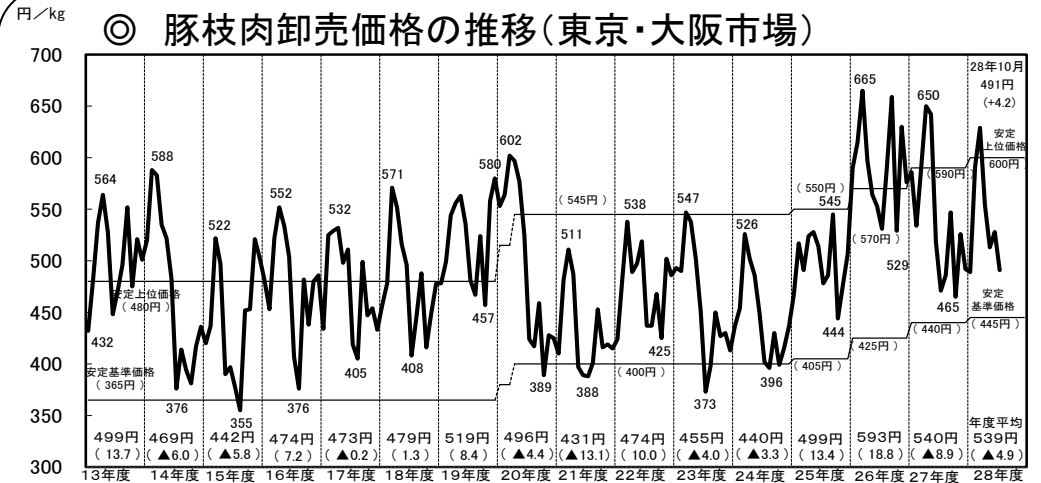
指定食肉(豚肉・牛肉)の価格安定制度の概要

○ 食肉の価格安定制度は、(独)農畜産業振興機構の需給操作等を通じて安定価格帯の幅の中に卸売価格を安定させることにより、価格の乱高下を防ぎ、消費者への食肉の安定供給を図るとともに、生産者の経営安定に資する。

◎ 価格安定制度の仕組み

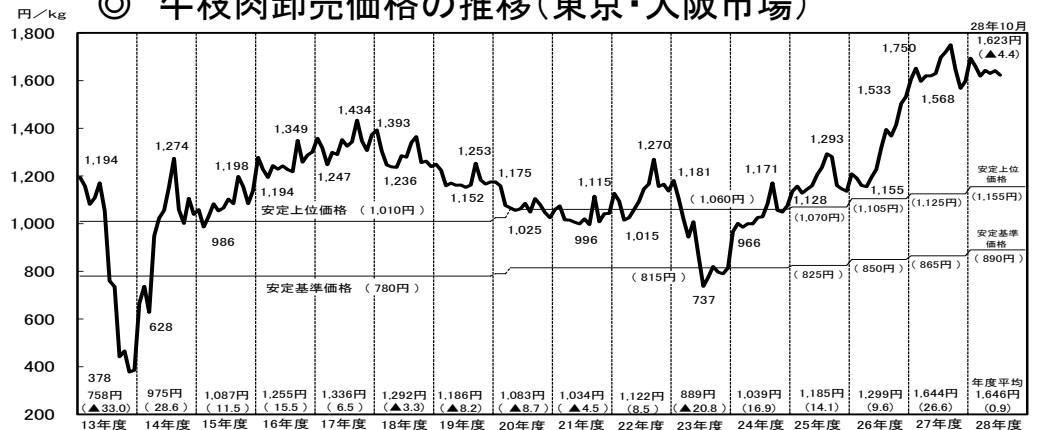


◎ 豚枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



資料: 農林水産省「畜産物流通統計」
注1: 価格は東京及び大阪の中央卸売市場における「極上・上」規格の加重平均値(省令価格)
注2: ()内は対前年度騰落率

◎ 牛枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



資料: 農林水産省「畜産物流通統計」
注1: 価格は東京及び大阪の中央卸売市場における去勢和牛・乳用肥育去勢牛などの「B2・B3」規格の加重平均値(省令価格)
注2: ()内は対前年度騰落率

◎ 指定食肉の安定価格(28年度)

(単位: 円/kg)

	豚肉	牛肉
安定上位価格	600(+10)	1,155(+30)
安定基準価格	445(+5)	890(+25)

注: ()内は前年度からの改訂額

指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格について

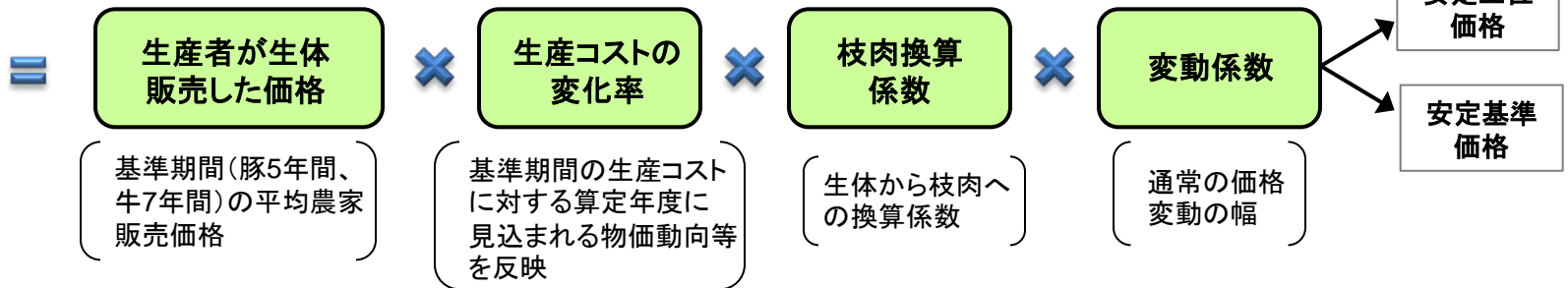
○ 指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格

基本的な考え方：

豚肉や牛肉の卸売価格は一定期間でその水準が一巡する特徴があるが、この一定期間の過去の販売価格で生産者の生産コストがまかなわれていたことに注目して、季節変動を加味して一年を通じて生産コストがまかなわれる豚肉・牛肉の卸売価格の範囲を算出する。

[基本算式]

安定価格
(枝肉1kg当たり)



肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格について

1. 肉用子牛の保証基準価格

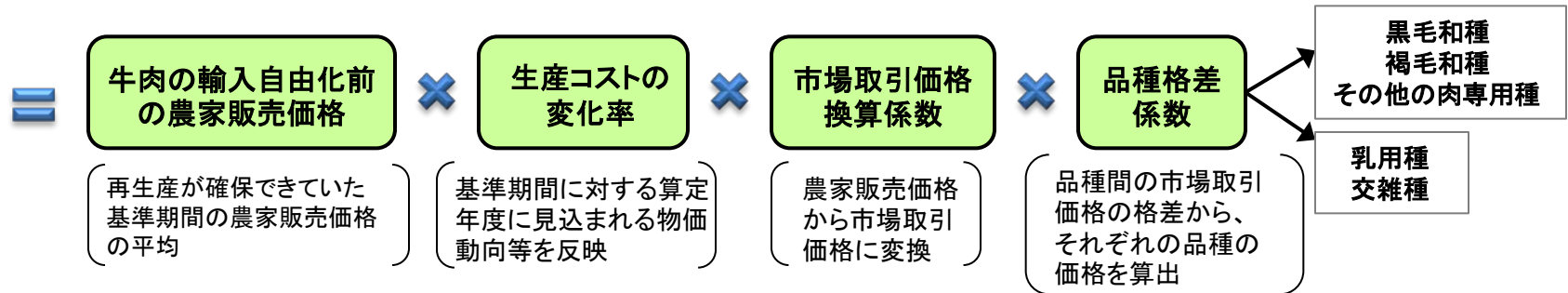
基本的な考え方：

平成3年の牛肉の輸入自由化の影響を緩和するため、輸入自由化前の農家販売価格の水準を維持し、子牛の再生産を保証する市場取引価格を、輸入自由化前の農家販売価格を基にその後の経済情勢の変化を加味して品種毎に算出する。

[基本算式]

保証基準価格

(子牛1頭当たり)



注:「基準期間」は、牛肉の輸入自由化前7年間(昭和58年2月～平成2年1月)に固定。

2. 肉用子牛の合理化目標価格

基本的な考え方：

外国産牛肉に対して競争力のある国産牛肉を実現するために、子牛から成牛までの肥育に必要な合理的な費用を勘案して、目指すべき子牛の市場取引価格を品種毎に算出する。

[基本算式]

合理化目標価格

(子牛1頭当たり)

